

(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築事業		路河川名等		(国)299号		
事業毎の通番		1	市町村名	佐久穂町	箇所名(ふりがな)	大石(おおいし)		
事業概要	事業目的	国道299号は茅野市と佐久穂町、群馬県を結ぶ道路であり、観光シーズンには大型観光バスが多く通行している。大石地区付近は急勾配・急カーブ箇所が存在し、交通事故が2件発生している。 また、当該地区は現在建設中の中部横断自動車道の八千穂IC(仮称)の開通に伴い交通量の増加が見込まれている。そのため、道路線形改良工事を実施し車両通行の安全性確保と交通の円滑化を図り、また観光地(ハケ岳高原)へのアクセス強化を図る						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8生活を支える地域交通の確保(生活基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等		道路法		
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン I-(1)② 拠点間をつなぐ道路ネットワーク						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:2,826台/日(H42推計)						
	着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2021(平成33年度)	費用対効果	4.3		国庫	その他	県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路拡幅工 L=200m、W=6.0(7.5)m			20,000		19,000	2,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少 7百万円						
	間接的効果(定量的・定性的)	交通円滑化による観光地へのアクセス強化						
評価の視点	必要性	○計画交通量 : 2,826台/日 ○代替道路の有無 : 迂回路なし ○医療・福祉・教育施設との連携 : 佐久総合病院小海分院への2次アクセス ○交通結節点アクセス : 千曲バス白駒線 ○観光振興・地域の活性化 : 八千穂高原へのアクセス道路(15km)					評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定 : 避難経路 ○地域指定 : 佐久地域定住自立圏					評価	A
	効率性	○費用便益比(B/C) : 4.32 ○事業期間 : 3年間 ○工法等の比較検討 : 検討あり ○他事業との連携 : 他事業との連携はない					評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数 : なし ○道路環境改善 : 局所的な安全向上 ○歩道整備 : なし ○現況の車道幅員 : 車道幅員5.0m					評価	C
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知(町へ周知)					評価	B
		○地域の取り組み : 地元の要望活動あり ○地域の合意形成 : 合意形成は概ね図られている ○住民との協働 : 不明						
所管課意見	事業の必要性、重要性、効率性、が高いため、平成31年度から事業着手したい。				採択状況	総合評価		
					○	B		
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。							

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので)



【整備の必要性がわかる状況写真等】



事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	国道299号は茅野市と佐久穂町、群馬県を結ぶ道路であり、観光シーズンには大型観光バスが多く通行している。大石地区付近は急勾配・急カーブ箇所が存在し、交通事故が2件発生している。また、当該地区は現在建設中の中部横断自動車道の八千穂IC(仮称)の開通に伴い交通量の増加が見込まれている。そのため、道路線形改良工事を実施し車両通行の安全性確保と交通の円滑化の要望が挙がっている。		
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	・平成21年度以前より佐久穂町および区から要望が挙がり、以降、毎年要望活動がある。		
③事業説明等の経緯	・佐久穂町へ周知済み。		
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	・なし		
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	・設計段階で検討予定。		
⑥地域活性化への影響と配慮	・中部横断自動車道の八千穂IC開通に伴う交通量増加に対する安全確保及び交通の円滑化により、八千穂高原やハケ岳高原へのアクセス強化をはかる。		
⑦その他	・なし		
		事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 13' 22" 71 東経:E 138° 23' 32" 86

(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築事業		路河川名等	(主)諏訪白樺湖小諸線				
事業毎の通番		2	市町村名	立科町	箇所名(ふりがな)	樽ヶ沢(たるがさわ)			
事業概要	事業目的	当路線は、東信地方と諏訪地方を結ぶ主要路線であり、白樺高原に向かう観光道路でもある。長門牧場及び雨境～美上下区間においては、現況の路肩が狭く脱輪事故等が起きているため、両側の路肩を拡幅し、安全な通行の確保を図りたい。樽ヶ沢工区においては急カーブで交通事故が発生しているため、急カーブの線形を解消し、安全で快適な交通の確保を図りたい。							
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-2世界を魅了するしあわせ観光地域づくり(観光地域としての基盤づくり)		事業実施の根拠法令等	道路法				
	関連する事業、計画等	農山村産業クラスター形成プロジェクト(世界水準の山岳高原観光地づくり) 健康づくり・医療充実プロジェクト(健康づくり県民運動の展開) 教育再生プロジェクト(生涯にわたる学びの環境整備)							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	八ヶ岳中信高原国定公園 計画交通量 1,595台/日							
	着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	10年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	2028(平成40年度)	費用対効果	1.4		国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路拡幅工 L=2064.0m、W=5.5(9.25)m			400,000			360,000	40,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の縮減 0.22億円							
	間接的効果(定量的・定性的)	観光振興による地域活性化 地域住民の安全・安心の確保							
評価の視点	必要性	○計画交通量 : 1,595台/日 ○代替道路の有無 : 30分以上の迂回を伴う ○医療・福祉・教育施設との連携 : 白樺湖周辺のリゾート地 大学・企業等の保養施設 ○交通結節点アクセス : 立科町コミュニティバス シラカバ線 ○観光振興・地域の活性化 : 白樺湖、女神湖、長門牧場、御泉水自然園、スキー場等へ通じる道路						評価	
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送路の路線指定 : 緊急時に立科町の緊急輸送路に指定される道路 ○地域指定 : 観光圏整備(白樺湖周辺)に指定されている						評価	
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.44 ○事業期間 : 10年間 ○代替案の検討 : 設計時に最安価な工法を選定 ○他事業との連携 : 他事業との連携はない						評価	
	緊急性	○近年の交通事故件数 : 冬期スリップ事故発生 自動車事故発生 3件以上 ○道路環境改善 : 幅員狭小部・鋭角なカーブの解消 ○歩道整備 : H29歩道リメイク ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 勾配11%、曲線部拡幅なし						評価	
	計画熟度	○事業情報の共有 : H30.5立科町役場へ説明 H30.5白樺湖観光協会へ説明 ○地域の取り組み : H29 提言連絡により歩道リメイクを含む白樺湖周辺の整備を建設部長へ提言 ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○住民との協働 : アダプシステム等による沿道美化の取り組みあり						評価	
	所管課意見	事業の必要性、重要性、緊急性、計画の熟度が高いため、平成31年度から事業着手したい。						採択状況	総合評価
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。						○	A	

事業概要説明図表	【位置図】	【平面図】	【状況写真】
			カーブが急で、観光バスが対向車線にはみ出している
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(主)諏訪白樺湖小諸線は、東信地方から諏訪地方を結ぶ幹線道路であり、生活・観光道路として利用されているため、幅員狭小・鋭角なカーブの解消を図りたい	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	日本一の山岳環境を活かし、世界水準の山岳高原観光地づくりを目指すべく、地元からアクセス・利便性の向上を望む要望を受けている	
	③事業説明等の経緯	これまで幅員狭小部や急カーブの視距の悪い箇所の部分的な解消を実施しており引き続き改良を行う意向であることを毎年意見交換会等で事業説明を実施している	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0のプロジェクト施策の推進を図る	
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	豊かで美しい景観の価値を維持・創出するため、幅員狭小部や急カーブの視距が悪い箇所を改良する際、自然環境への負荷の低減を図る土工事に配慮を実施している	
	⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化が図られ、付近の観光施設等の活性化も期待される	
	⑦その他	道路構造物の工法等を比較検討することによりコスト縮減を図る	事業代表地点の緯度経度

(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築事業		路河川名等	(一)小諸中込線		
事業毎の通番	3	市町村名	佐久市	箇所名(ふりがな)	平塚(ひらつか)	
事業目的	本線は、小諸と佐久を結び、通勤による交通量が多い路線である。中部横断自動車道 中佐都ICの開通に伴い、インターチェンジを目指す交通量が増加したが当該箇所は幅員が狭く、市道との接続部は車両のすれ違いが困難な交差点となっている。これを解消すべく道路拡幅事業を実施し、円滑な交通を確保したい。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8生活を支える地域交通の確保(生活基盤となる道路網の整備)	事業実施の根拠法令等	道路法			
関連する事業、計画等	信州みちビジョン I-(1)② 拠点間をつなぐ道路ネットワーク 佐久市が接続部の市道について拡幅を予定している。					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:2,711台/日					
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2022(平成34年度)	費用対効果	1.3	国庫	その他	県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	道路拡幅工 L=250m W=6.0(10.0)m			350,000		315,000 35,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少(0.13億円) 交通事故の抑制				
	間接的効果(定量的・定性的)	佐久中佐都インターへのアクセス向上による広域交流及び物流の活性化				
評価の視点	必要性	○計画交通量 : 2,576台/日 ○代替道路の有無 : 周辺市道 ○医療・福祉・教育施設との連携 : 佐久大学への2次アクセス ○交通結節点アクセス : 中佐都ICへの1次アクセス(0.2km) ○観光振興・地域の活性化 : 佐久平、懐古園へのアクセス道路				評価 A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定 : 佐久地域防災計画 根々井平塚地区 避難経路 ○地域指定 : 地域指定はない				評価 B
	効率性	○費用便益比(B/C) 1.39 ○事業期間 : 4年間 ○工法等の比較検討 : ルート案について比較検討あり ○他事業との連携 : 佐久市の市道拡幅と連携予定				評価 A
	緊急性	○近年の交通事故件数 : 3件以上 ○道路環境改善 : 局所的な渋滞緩和 ○歩道整備 : 佐久市 学校別通学路対策要望一覧表(平成29年度) ○現況の車道幅員 : 車道幅員3.5m				評価 B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 地元区及び近隣区、佐久市と共有 ○地域の取り組み : H28.9月、H29.12月近隣区役員、佐久市道路建設課と佐久建設事務所で見解交換会を実施 ○地域の合意形成 : 地元区から事業に対する同意書が提出されている。 ○住民との協働 : 不明				評価 B
所管課意見	事業の必要性、効率性が高いため、平成31年度から事業着手したい。			採択状況	総合評価	
				○	A	
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。					

事業概要説明図表	【位置図、平面図等】	
事業周辺環境	【整備の必要性がわかる状況写真等】	
①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本線は、小諸と佐久を結び、通勤による交通量が多い路線である。中部横断自動車道 中佐都ICの開通に伴い、インターチェンジを目指す交通量が増加したが当該箇所は幅員が狭く、市道との接続部は車両のすれ違いが困難な交差点となっている。これを解消すべく道路拡幅事業を実施し、円滑な交通を確保したい。	
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成27年11月 佐久市及び佐久市区長会から当区間の県道改良要望が出されている。平成29年7月 地元区長より、沿線地権者が署名押印した県道整備に関する同意書が提出された	
③事業説明等の経緯	平成28年9月、平成29年12月 地元区及び近隣区役員、佐久市道路建設課と佐久建設事務所で見解交換会を実施。平成30年6月、地元区及び近隣区役員、沿線地権者を集め、佐久市と共に測量説明会を実施。	
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	佐久市が接続部の市道について拡幅を予定している。	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	住宅が多いため、防音型側溝等を使用し生活環境に配慮する。	
⑥地域活性化への影響と配慮	中佐都IC、佐久平駅への利便性向上による暮らしやすい生活環境の形成による経済効果が期待される。	
⑦その他	なし	
	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 18' 24" 東経:E 138° 28' 51"

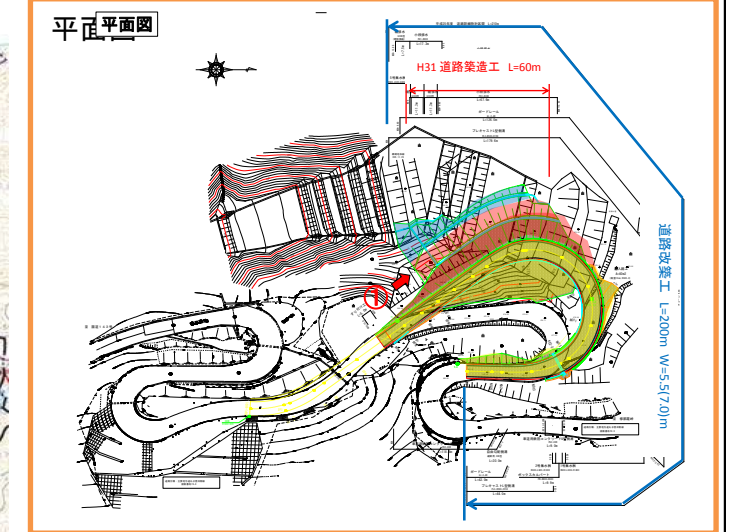
(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築		路河川名等	(主)丸子信州新線			
事業毎の通番	4	市町村名	青木村	箇所名(ふりがな)	修那羅峠(しよならとうげ)		
事業概要	事業目的	主要地方道丸子信州新線は、上田市鹿教湯温泉と信州新町で国道19号に接続する幹線街路であり、地域住民の重要な生活道路として位置付けられている。 青木村から長野道麻績インターへのアクセス道路であり、地域住民の生活道路として大変重要な道路である。しかしながら、当区間は急カーブで、大型バス通行に支障となっている。 このため、他事業の残土を利用する中で道路整備を行うものである。					
	しあわせ信州創造プラン 2.0における位置付け	3-8生活を支える地域交通の確保 (生活基盤となる道路網の整備)	事業実施の根拠法令等	道路法			
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン I-(1)②拠点間をつなぐ道路ネットワーク					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量 2,500台/日					
	着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	2023(平成35年度)	費用対効果	1.1	国庫	その他	県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路拡幅工 L=200m、W=5.5(7.0)m			100,000		90,000 10,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少 1.16億円 災害に強い道路					
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進					
評価の視点	必要性	○計画交通量 : 2,476台/日 ○代替道路の有無 : 近くに迂回路がなく真田新田線を迂回すると30分以上要する ○医療・福祉・教育施設との連携 : - ○交通結節点アクセス : 長野道麻績IC ○観光振興、地域の活性化 : 観光資源(田沢温泉、沓掛温泉、国宝大法寺)の活性化に資する				評価	
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送路の路線指定 : 県緊急輸送路(2次)に路線指定 ○地域指定 : 振興山村				評価	
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.11 ○事業期間 : 5年間 ○代替案の検討 : - ○他事業との連携 : 砂防事業の残土を盛り立て土に利用				評価	
	緊急性	○近年の交通事故件数 : 5箇年の事故なし ○道路環境改善 : 大型バス通行不能を解消 ○歩道整備 : - ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 車道幅員W=5.5m、曲線部の拡幅なし				評価	
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知(地元役員に事業説明会を開催) ○地域の取り組み : 青木麻績インター新町間県道促進既成同盟会から毎年要望がある ○地域の合意形成 : 事業用地は取得済みであり合意形成が図られている ○住民との協働 : 不明				評価	
	所管課意見	事業の必要性、重要性、効率性が高いため、平成31年度から事業着手したい。			採択状況	総合評価	
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。			○	A		

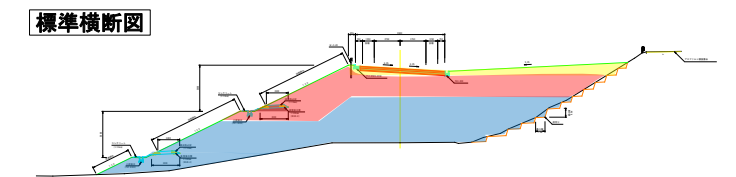
【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので)

(どこでどのような整備をする計画か。コメントや図形を駆使して一般県民にわかりやすいものとする。レイアウト等自由に変更してください。)



【整備の必要性がわかる状況写真等】

(なぜ整備が必要か、どのような整備を計画しているか。コメントや図形を駆使して、一般県民に分かりやすいものとする)



事業概要説明図表

事業周辺環境

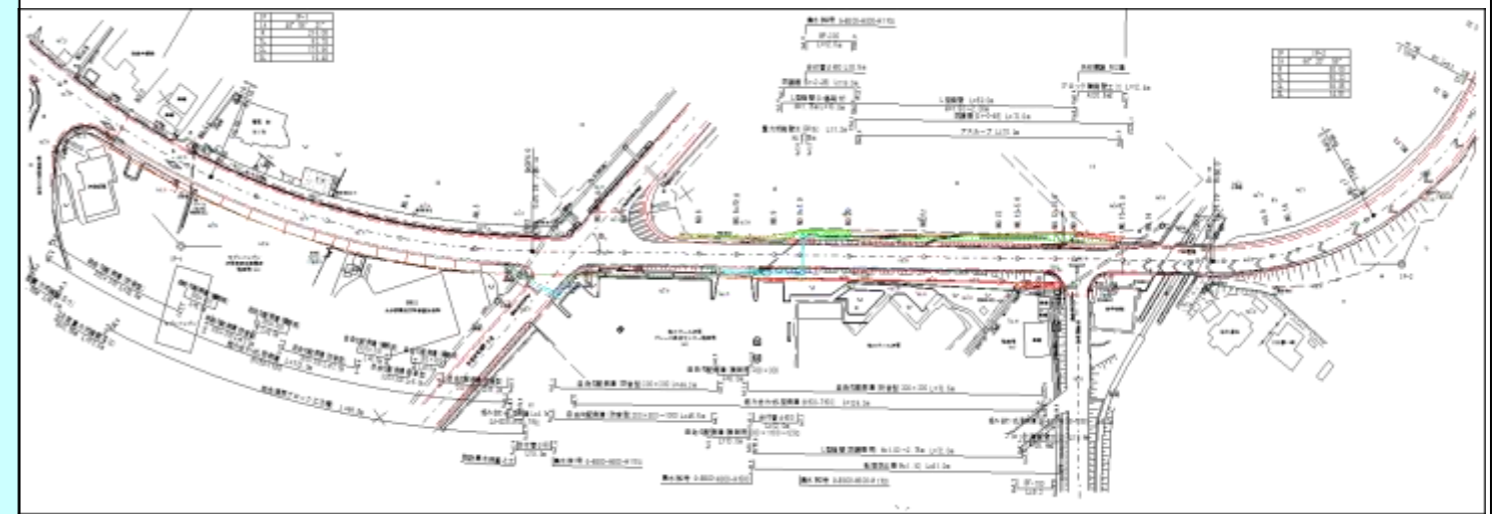
①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は、筑北村から国道143号青木村方面に通ずる道路である。現道は縦断勾配が急であり、S字カーブが連続するなど線形が悪いことから、大型車のすれ違いが困難であるなど通行車両の安全に支障をきたしている。バス会社や地域住民からの要望も強く、通過交通の安全確保のため早期事業着手が望まれている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	青木麻績インター新町間県道促進既成同盟会から毎年建設部長へ要望がある。
③事業説明等の経緯	地元役員に説明している。事業用地は村の所有であり、用地買収の了解を得ている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	特になし
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	特になし
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化が図られ、観光地の周遊性が高まり地域の活性化も期待される。
⑦その他	砂防事業の残土を盛立土に利用
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 00' 00" 00 東経:E 36° 00' 00" 00

(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築事業		路河川名等	(主)伊那市飯田線		
事業毎の通番	5	市町村名	伊那市	箇所名(ふりがな)	六軒屋(ろっけんや)	
事業目的	(一)西伊那線は、上伊那地区の天竜川左岸を南北に縦断する幹線道路であり、伊那市市街地と富県地区を直結する唯一の道路で、第二次緊急輸送路にも指定されている。当該箇所は幅員が不足しており大型車のすれ違いが困難な状況である。また、歩道が未設置であるため、特に交通が集中する朝晩は危険な状態となっており、当該箇所の道路改築を行うことにより、円滑な交通と安全の確保を図りたい。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8生活を支える地域交通の確保(生活基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法		
関連する事業、計画等	信州みちビジョン I-(1)② 拠点間をつなぐ道路ネットワーク					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量: 11,900台/日					
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2022(平成34年度)	費用対効果	3.7		国庫	その他
全体事業内容(主な工種)	道路拡幅工 L=273m、W=6.0(9.75)m			80,000		72,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少: 0.14億円 幅員狭小区間の解消				
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進				
評価の視点	必要性	○計画交通量: 11,900台/日 ○代替道路の有無: あり ○医療・福祉・教育施設との連携: 富県地区と伊那中央病院や市街地各種施設とを連携 ○交通結節点アクセス: - ○地域の活性化: 高遠城址公園へのアクセス道路				評価
	重要性	○関連計画、重点施策との整合: 信州みちビジョン ○緊急輸送路の路線指定: 県2次緊急輸送路 ○地域指定: 東海地震防災対策強化地域				評価
	効率性	○費用対効果(B/C): 3.74 ○事業期間: 4年間 ○代替案の検討: 道路詳細設計済 ○他事業との連携: -				評価
	緊急性	○近年の交通事故件数: なし ○道路環境改善: 朝夕の局部的現象を緩和 ○歩道整備: 朝夕の局部的現象を緩和 ○現況の車道幅員: 現況最小幅員5.0(6.0)m				評価
	計画熟度	○事業情報の共有: 道路改築について地元区から伊那市に要望あり ○地域の取り組み: 伊那市より要望あり ○地域の合意形成: 道路改築について地元区から伊那市に要望あり ○住民との協働: 不明				評価
	所管課意見	重要性、効率性が高いため、平成31年度から事業着手したい。				採択状況
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。				○	B

【平面図】



【状況写真】



事業概要説明図表

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(一)西伊那線は、上伊那地区の天竜川左岸を南北に縦断する幹線道路であり、伊那市市街地と富県地区を直結する唯一の道路で、第二次緊急輸送路にも指定されている	
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	当該箇所は幅員が不足しており大型車のすれ違いが困難な状況である。また、歩道が未設置であるため、特に交通が集中する朝晩は危険な状態となっており、当該箇所の道路改築を行うことによる円滑な交通と安全の確保を要望されている。	
③事業説明等の経緯	伊那市に事業概要について説明している。	
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	法面等の自然環境に配慮した工法を選定予定	
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化が図られ、地域活性化に寄与する。	
⑦その他	なし	
	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 00' 00" 00 東経:E 36° 00' 00" 00

(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築事業		路河川名等	(一)西伊那線		
事業毎の通番	6	市町村名	伊那市	箇所名(ふりがな)	上大島(かみおおしま)	
事業目的	(一)西伊那線は、伊那市の国道361号から駒ヶ根市を經由し、中川村四徳を結ぶ一般県道である。当該箇所は高遠城址公園への主要ルートである国道361号と県道沢渡高遠線を連絡しており、観光シーズンを通して交通量の増加や大型車両の進入があり、狭隘な幅員のため支障を来している。また、平成31年3月末に稼働している上伊那広域ごみ中間処理施設に近接しており、大型車の通行の増加が予想される。このため、当該箇所の道路改築を行うことにより、円滑な交通と安全の確保を図りたい。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8生活を支える地域交通の確保(生活基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法		
関連する事業、計画等	伊那市都市計画マスタープラン					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:3,326台/日					
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2022(平成34年度)	費用対効果	1.32		国庫 其他 県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	道路拡幅工 L=320m、W=5.5(7.0)m			50,000	45,000 5,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少:0.87億円 幅員狭小区間の解消				
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進				
評価の視点	必要性	○計画車交通量 : 3,326台/日 ○代替道路の有無 : あり ○医療・福祉・教育施設との連携 : なし ○交通結節点アクセス : 伊那市バス路線(新山線) ○観光振興・地域の活性化 : 高遠城址公園			評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 伊那広域新ごみ中間処理施設・伊那市都市計画マスタープラン ○緊急輸送路の路線指定 : 伊那市指定緊急輸送路 ○地域指定 : 東海地震防災対策強化地域			評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.32 ○事業期間 : 4年間 ○代替案の検討 : 道路詳細設計済 ○他事業との連携 : 伊那広域新ごみ中間処理施設			評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数 : なし ○道路環境改善 : 朝夕の局部的現象を緩和 ○歩道整備 : なし ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 現況最小幅員4.0(5.0)m、曲線部拡幅なし			評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 県道西伊那線改修促進期成同盟会を中心に地元区民にも道路改良について情報共有が行われている			評価	B
		○地域の取り組み : 新中ごみ処理施設の稼働を目指し、道路改築について地域のとりまとめ等の協力体制が準備されている ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○住民との協働 : 未定				
所管課意見	事業の必要性、重要性、効率性が高いため、平成31年度から事業着手したい。			採択状況	総合評価	
				○	B	
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。					

【平面図】



【状況写真】



事業概要説明図表

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(一)西伊那線は、伊那市の国道361号から駒ヶ根市を經由し、中川村四徳を結ぶ一般県道である。当該箇所は高遠城址公園への主要ルートである国道361号と県道沢渡高遠線を連絡しており、観光シーズンを通して交通量の増加や大型車両の進入があり、狭隘な幅員のため支障を来している。	
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	観光シーズンを通して交通量の増加や大型車両の進入があり、狭隘な幅員のため支障を来しているとともに、平成31年3月末に稼働を予定している上伊那広域ごみ中間処理施設に近接しており、大型車の通行の増加が予想されるため、地域の円滑な交通と安全の確保を要望されている。	
③事業説明等の経緯	本事業区間の設計概要について、地元議員と役員に図面提示を行っている。	
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	平成31年3月末に稼働を予定している上伊那広域ごみ中間処理施設に近接しており、大型車の通行の増加が予想される。	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	法面等の自然環境に配慮した工法を選定予定	
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化が図られ、地域の活性化に寄与する。	
⑦その他	なし	
	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 00' 00" 00 東経:E 36° 00' 00" 00

(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築事業		路河川名等	(一)北林飯島線			
事業毎の通番		7	市町村名	上伊那郡中川村	箇所名(ふりがな)	三共(さんきょう)		
事業概要	事業目的	当該路線は、(国)153号(第一次緊急輸送路)と(主)伊那生田飯田線(第二次緊急輸送路)を結ぶ路線である。当該区間以外は改良済みであることから、未改良部分も整備し、安全な交通空間を確保したい。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8生活を支える地域交通の確保(生活基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法			
	関連する事業、計画等	中川村地域防災計画						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:652台/日						
	着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2023(平成35年度)	費用対効果	1.05		国庫	その他	県債
	全体事業内容(主な工種)	道路拡幅工 L=340.0m、W=5.5(7.0)m			100,000		90,000	10,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の減少:4百万円 避難路の整備(災害に強い道路)						
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進						
評価の視点	必要性	○計画交通量 : 652台/日 ○代替道路の有無 : 代替道路があるが、安全性が低い(代替道路天竜川渡河橋梁・・・定期点検結果Ⅲ、当該路線天竜川渡河橋梁・・・定期点検結果Ⅱ) ○医療・福祉・教育施設との連携 : 中川東小・西小・中川中との連携が発揮できる道路(1次アクセス) ○交通結節点アクセス : 中川村役場 ○観光振興・地域の活性化 : 陣場形山・花の里いいじまへ通じる道路					評価	B
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 暮らしを支える道路網の整備、災害に強い道路などの整備(中川村避難路) ○緊急輸送路の路線指定 : 避難場所への避難路 ○地域指定 : 地震防災対策強化地域					評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.05 ○事業期間 : 5年間 ○代替案の検討 : 詳細設計にて検討 ○他事業との連携 : 他事業との連携はない					評価	B
	緊急性	○近年の交通事故件数 : なし ○道路環境改善 : 安全性の向上、朝夕の局部的現象の緩和 ○歩道整備 : 該当しない ○現況の車道幅員 : 車道幅員W=2.5~3.2m					評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 中川村の道路改築要望あり ○地域の合意形成 : 今後形成見込み ○住民との協働 : 不明					評価	B
	所管課意見	事業の重要性が高いため、平成31年度から事業着手したい。				採択状況	総合評価	
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。				○	B		

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので)



【整備の必要性がわかる状況写真等】



①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	・当該路線は、(国)153号(第一次緊急輸送路)と(主)伊那生田飯田線(第二次緊急輸送路)を結ぶ本地区における重要路線となっている。しかしながら、一部未改良区間があり、幅員狭小部が連続していることから、車両のすれ違い時に交通障害が発生しており、危険な状況である。このため、拡幅改良による安全確保が強く求められている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	・毎年、中川村より現地調査時に拡幅要望を受けている。
③事業説明等の経緯	・中川村と事業内容について調整している。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	・なし
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	法面等の自然環境に配慮した工法を選定予定
⑥地域活性化への影響と配慮	・本事業により交通の円滑化が図られ、安全な運行が確保される。
⑦その他	・なし

事業代表地点の緯度経度
北緯:N 137° 56' 01" 15
東経:E 35° 37' 24" 97

(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築事業		路河川名等	(一)上片桐(停)線					
事業毎の通番	8	市町村名	下伊那郡松川町	箇所名(ふりがな)	原田(はらだ)				
事業目的	(一)上片桐(停)線は、(主)飯島飯田線とJR飯田線 上片桐駅を結ぶ生活道路となっているが、現道の幅員は狭く、すれ違いの困難な箇所が多い。また、近隣には、なし・りんご・水稻の栽培地も多く、農耕車両の通行に利用されたり、観光農園等へのアクセス道路となっている。しかし、当該箇所は、十分な幅員が確保できていないため、対向車両の発見の遅れや、車両通過時のすれ違いが困難な状況にあり、地元からは早期改良の要望が強い。このため、道路拡幅事業により円滑な交通確保を図りたい。								
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8生活を支える地域交通の確保(生活基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法					
関連する事業、計画等	信州みちビジョン I-(1)② 拠点間をつなぐ道路ネットワーク								
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量 7,024台/日								
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	3年間		事業費(千円)				
完成年度(見込み)	2021(平成33年度)	費用対効果	3.46		国庫	その他	県債 一般財源		
全体事業内容(主な工種)	道路築造工 L=900.0m、W=6.0(9.75)m		100,000		90,000	10,000			
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	事故多発箇所の解消 交通事故5件/5年 → 交通事故0件/年							
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進							
評価の視点	必要性	○計画交通量 : 7,024台/日 ○代替道路の有無 : 代替道路あり ○医療・福祉・教育施設との連携 : 医療・福祉の連携が発揮できる道路(円滑化が図れる) ○交通結節点アクセス : 松川IC(2.0km)、JR上片桐駅(1.2km) ○観光振興・地域の活性化 : 松川ICから観光農園へのアクセス道路					評価	A	
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定 : 松川町の避難道路となりうる路線 ○地域指定 : 地震防災対策強化地域					評価	A	
	効率性	○費用便益比(B/C) : 3.46 ○事業期間 : 3年間 ○工法等の比較検討 : 線形計画、交差点設計等、H30年度に実施 ○他事業との連携 : 特になし					評価	A	
	緊急性	○近年の交通事故件数 : 交通事故5件/5年 ○道路環境改善 : 事故多発箇所が解消され、住民の安全安心な暮らしが確保される。 ○歩道整備 : 歩道整備 ○現況の車道幅員 : 車道幅員4.6~6.1m					評価	B	
	計画熟度	○事業情報の共有 : 基本計画について、H30.10 町長合意 ○地域の取り組み : 改良要望が挙げられ、協力的であるが、取り組みは特になし。 ○地域の合意形成 : 基本計画について、H30.10 町長合意 ○住民との協働 : 住民関与が不明である					評価	B	
所管課意見	事業の必要性、重要性、緊急性が高いため、平成31年度から事業着手したい。					採択状況	○	総合評価	A
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。								

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので)

(どこでどのような整備をする計画か。コメントや図形を駆使して一般県民にわかりやすいものとする。レイアウト等自由に変更してください。)

位置図

平面図

【整備の必要性がわかる状況写真等】

(なぜ整備が必要か、どのような整備を計画しているか。コメントや図形を駆使して、一般県民に分かりやすいものとする)

朝の通勤状況

構造図

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(一)上片桐(停)線沿線は、なし・りんご・水稻の栽培地が多く、農耕車両の通行に利用されたり、観光農園等へのアクセス道路となっている。しかし、当該箇所は、十分な幅員が確保できていないため、対向車両の発見の遅れや、車両通過時のすれ違いが困難な状況にあり、地元からは早期改良の要望が強い。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	地元住民より松川町役場を通じて毎年要望や提言が挙げられている
③事業説明等の経緯	平成30年10月11日、松川町へ事業説明
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	(主)飯島飯田線 上片桐バイパス延伸事業
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	事故多発箇所が解消され、住民の生活の安全が確保される。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化が図られ、下伊那地区の活性化が期待される。
⑦その他	特になし

事業代表地点の緯度経度
北緯:N 35° 36' 58.4"
東経:E 137° 53' 48.8"

(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築		路河川名等	(主)開田三岳福島線				
事業毎の通番	9	市町村名	木曾町	箇所名(ふりがな)	白川(しらかわ)			
事業目的	当路線は、木曾町福島(R19)と開田高原(R361)を結ぶ主要地方道であり、緊急輸送路(2次)に指定されるとともに、御岳山やスキー場、温泉施設等の沿線の観光地を結ぶ地域の重要路線である。 当該区間の前後は整備済みであるが、当該区間の一部は幅員狭小で視距が悪く、ネック箇所となっており、大型車のすれ違いが困難であるため、この路線の利便性向上のためにも整備が急がれる。							
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8生活を支える地域交通の確保(生活基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法				
関連する事業、計画等	木曾地域振興計画、長野県地域防災計画							
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:1,577台/日							
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	8年	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	2026(平成38年度)	費用対効果	2.0		国庫	その他	県債	
全体事業内容(主な工種)	道路拡幅工 L=180m W=5.5(7.0)m			120,000	0	0	108,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少:7百万円 災害に強い道路						
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進						
評価の視点	必要性	○計画交通量:1,577台/日 ○代替道路の有無:無 ○医療・福祉・教育施設との連携:木曾病院 ○交通結節点アクセス:木曾福島駅への1次アクセス、バス路線 ○観光振興・地域の活性化:観光地に通じる道路(開田高原、御岳山)					評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:木曾地域振興計画 ○緊急輸送路の路線指定:県緊急輸送路(2次) ○地域指定:振興山村、過疎地域、積雪地域					評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C):2.02 ○事業期間:8年(H31~H38) ○工法等の比較検討:ルート比較検討あり ○他事業との連携:なし					評価	B
	緊急性	○近年の交通事故件数:1件(H26) ○道路環境改善:防災点検危険箇所 ○歩道整備:なし ○現況の幅員:現況幅員4.0(5.0)m					評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知(木曾町役場) ○地域の取り組み:木曾町、木曾町議会からの要望 ○地域の合意形成:事業目的について合意有り ○住民との協働:不明					評価	B
所管課意見	事業の必要性、重要性、緊急性が高いため、平成31年度から事業着手したい。					採択状況	総合評価	
						○	A	
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。							

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

【整備の必要性がわかる状況写真等】

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	木曾町福島(R19)と開田高原(R361)を結ぶ当路線は、緊急輸送路(2次)に指定されるとともに、沿線の観光地を結ぶ地域の重要路線であり、過去より改良工事が進められてきたが、地形が急峻な当区間はトンネルによるバイパス構想があり、幅員狭小でありながら改良計画が見送られてきた箇所である。路線の重要性から早期改良を図るためコストを抑えた現道拡幅による改良をすすめる。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	本区間の改良については、過去には(一)白川にかかる白川橋の架け替え計画を含め、トンネルによるバイパス化の要望があったが、前後区間での改良も進み、ネック区間のみが残されているため、社会情勢の変化も踏まえつつ、コストを抑えた現道拡幅による早期改良の要望が強い。
③事業説明等の経緯	地元木曾町役場に改良計画について説明済
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	地域防災計画において緊急輸送路(二次)指定されるとともに、木曾地域振興計画において広域交通ネットワーク整備プロジェクトでの重点的な道路網の整備・充実が必要な路線として当路線が位置付けられている。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	自然環境および工事期間中の通行規制による住民生活について配慮し、地形の改変が最小限となるよう改良区間、工法について検討する。
⑥地域活性化への影響と配慮	本区間の拡幅改良に伴い、大型車観光バス等大型車の通行ネック箇所の解消が図られるため、緊急時の物資輸送や観光客の増加など地域の観光振興に寄与する。
⑦その他	なし

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 35° 51' 52"
東経:E 137° 35' 59"

(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築事業		路河川名等	(一)上松御岳線						
事業毎の通番	10	市町村名	上松町	箇所名(ふりがな)	高倉橋(たかくらばし)					
事業概要	事業目的	当路線は、山間部集落から上松町中心部へ通じる唯一の生活道路であるとともに、赤沢自然休養林への観光地を結ぶ地域の重要路線である。当該区間の前後は整備済みであるが、当該区間は現況幅員が4~5mと狭く、一部では乗用車同士のすれ違いが困難で、県外の大型観光バスのすれ違いもできないことから、一般交通の支障となっているため、この路線の利便性向上のためにも整備が急がれる。								
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8生活を支える地域交通の確保(生活基盤となる道路網の整備)	事業実施の根拠法令等	道路法						
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン I-(1)② 拠点間をつなぐ道路ネットワーク								
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:1,148台/日								
	着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
	完成年度(見込み)	2023(平成35年度)	費用対効果	1.2	国庫	0	0	県債	225,000	一般財源
全体事業内容(主な工種)	道路拡幅工 L=460m W=5.5(7.0)m			250,000	0	0	225,000	25,000		
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少:0.11億円 災害に強い道路								
	間接的効果(定量的・定性的)	観光振興・地域の活性化								
評価の視点	必要性	○計画交通量:1,148台/日 ○代替道路の有無:無 ○医療・福祉・教育施設との連携:木曽病院 ○交通結節点アクセス:上松駅への1次アクセス ○観光振興・地域の活性化:木曽病院、観光地に通じる道路(赤沢自然休養林、東大天文台観測所)						評価	A	
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定:該当しない ○地域指定:振興山村地域、過疎地域、積雪寒冷地域に指定されている						評価	B	
	効率性	○費用便益比(B/C):1.20 ○事業期間:5年間 ○工法等の比較検討:道路構造物について検討あり ○他事業との連携:他事業との連携はない						評価	A	
	緊急性	○近年の交通事故件数:5か年以内の事故はなし ○道路環境改善:防災点検危険箇所 ○歩道整備:なし ○現況の幅員:現況幅員4.0(5.0)m						評価	B	
	計画熟度	○事業情報の共有:沿道関係者を中心に周知(H25年度に道路詳細設計を実施) ○地域の取り組み:沿線地区、上松町からの要望 ○地域の合意形成:合意形成が図られている ○住民との協働:住民の意見を反映させ計画						評価	A	
	所管課意見	事業の必要性、効率性、計画の熟度が高いため、平成31年度から事業着手したい。						採択状況	○	総合評価
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。									

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので)

(どこでどのような整備をする計画か。コメントや図形を駆使して一般県民にわかりやすいものとする。レイアウト等自由に変更してください。)

位置図

平面図

【整備の必要性がわかる状況写真等】
(なぜ整備が必要か、どのような整備を計画しているか。コメントや図形を駆使して、一般県民に分かりやすいものとする)

構造図、完成予想図等

事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	山間部集落から上松町中心部へ結ぶ当路線は、唯一の生活道路であるとともに、観光地である赤沢自然休養林へのアクセス道路であり、過去より視距が悪い箇所を優先して改良工事が進められてきたため、当該区間は幅員狭小でありながら改良工事が見送られてきた箇所である。路線の重要性から早期改良を図るためコストを抑えた現道拡幅による改良をすすめる。
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	本区間の改良については、前後区間での改良も進み、ネック区間のみが残されているため、社会情勢の変化も踏まえつつ、コストを抑えた現道拡幅による早期改良の要望が強い。
	③事業説明等の経緯	本事業区間については、地元から強い要望があり、H25に道路詳細設計(土留構造物の詳細設計以外)を実施し、事業説明を個別に実施している。
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	他事業・プロジェクトとの整合、関連なし
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	自然環境および工事期間中の通行規制による住民生活について配慮し、地形の改変が最小限となるよう改良区間、工法について検討する。
	⑥地域活性化への影響と配慮	本区間の拡幅改良に伴い、大型車観光バス等大型車の通行ネック箇所の解消が図られるため、緊急時の物資輸送や観光客の増加など地域の観光振興に寄与する。
	⑦その他	なし
	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 46' 15" 43 東経:E 137° 39' 19" 69